

次号予告

特集	職業前評価と就労		
	職業前評価のいろいろ	国立身体障害センター	沢 治 子
	頸髄損傷者の職業前評価の傾向と就労		
	 都心身障害者福祉センター	寺 山 久美子	
	モダプツ法を通してみた精神薄弱者の作業能力と就労		
	 神奈川リハセンター	早川 俊秀・他	
	精神分裂病者の作業能力と就労	藍野病院	中川 昭二・他
	職業前評価と理学療法（主に成人病脳性麻痺を中心に）		
	 大阪府立身体障害者福祉センター	喜田 義次・他	
とび	 国立療養所東京病院	芳 賀 敏 彦	
座	運動学シリーズ VI 足部と足関節の運動学(3)		
	 板橋ナーシングホーム	丸 山 仁 司	
研究と報告	大腿義足におけるソケット適合の検討	兵庫リハセンター	鈴 木 重 行
紹介	第2回九州リハビリテーション大学校友会		
	一感覚総合の理論の実際に参加して	北九州市立足立学園	戸 島 万里子
メディカルブ	障害者心理 (3)	国立身体障害センター	永 井 昌 夫
ログレス	リハビリテーション機器 (3)	都補装具研	加倉井 周 一
Ｑ and A	 A 平尾一幸・Ｑ 飯塚恵津子		
本の紹介	砂原茂一著「ある医療、あるべき医療」	 都養育院	松 村 秩
＼	バーバラ・エフ・ベンジガー著 川口正吉訳		
	「わが心の牢獄」	東京病院附属リハ学院	小 林 夏 子
フォーラム	 九州リハ大学校	中 山 彰 一	
＼	 有馬温泉病院	奈 良 勲	

編集後記

長い梅雨が終って8月盛夏の候がまためぐって来た。今回は二つの小特集を併せてお送りする。

「整形外科的疾患から」では、石田氏の「腰痛症の鑑別診断と運動療法」が、豊富な図解をもちいて実にわかり易く運動療法を説明して下さっており、岩崎氏の「腰痛症の予防」とあわせて、一般人にも、また特に、医療・福祉関係者の間にも多い腰痛症に対するよい手引きとなるものと思われる。大田氏・他の「頸椎後縦靱帯骨化症について」は比較的最近発見され、しかも日本人に特に多い脊椎疾患という意味で、興味深いこの疾患について詳しく診断、病因、治療、さらに関連疾患に関して述べていただいたもので、本症の治療にあたるPT、OTにとって不可欠の基礎知識と云ってよい。

第2の特集である「理学療法士・作業療法士と法」は実は以前からは是非とりあげた

いテーマであったが、とり上げ方が難しく、何回か見送った末、今回やっと実現したものである。砂原氏の「法成立のころ」は、理学療法士・作業療法士法成立の事情の記録であるだけでなく、わが国の現代のリハビリテーション医学の成立史としても面白く、是非御一読をおすすめしたい。砂原、饒庭氏・他のてい談「法的責任」は、前記砂原論文の末尾にも指摘されていた理学療法士・作業療法士と医師との役割分担、責任範囲、不幸にして医療事故が起きた場合の法的責任という微妙な問題にはじめて手をつけたもので、今後の論議の呼び水になれば幸いである。われわれ医療関係者がなじんでいる考え方とはまた違った法学的な議論の進め方、考え方には教えられるところが多い。荻島氏、松村氏、鈴木氏にはそれぞれの角度からPT・OTの開業問題を論じていただいた。これも法成立時の事情（砂原論文参照）もからむ複雑な問題であり、今後更に本格的な検討が必要であろう。（上田 敏）

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長
五味 重 春
筑波大学心身障害学系教授
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部
佐 藤 肇
神奈川リハセンター
鈴 木 明 子
府中リハビリ学院
谷 岡 淳
自治医科大学
寺 山 久美子
都心障センター
福 屋 靖 子

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
大 橋 博
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
小 林 夏 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 剛
田 原 澄 彦
富 岡 詔 子
奈 良 勲
藤 沢 しげ子
藤 本 欽 也
前 田 守
松 本 妙 子
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
横 山 巖
和 才 嘉 昭
(担当 細田・西塚)